

議案第 1 号

合成繊維ケーブルの活用促進に向けた研究会 設立趣意書

令和 5 年 6 月に秋田県南部沖（由利本荘市・にかほ市沖）での浮体式洋上風力発電の導入に向けた実証事業の実施が決定しました。洋上風力発電は大量導入やコスト低減のポテンシャルが大きく、経済波及効果が見込まれることから、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札とされています。

特に浮体式洋上風力発電は広範囲な海域に設置が可能なため、早期のコスト低減を行うことで、今後の導入拡大が期待されており、秋田県南部沖においても、2030年までに、一定の条件下で、浮体式洋上風力発電を国際競争力のあるコスト水準で商用化する技術の確立を目指しています。

こうした中、浮体式洋上風力発電の係留索について、国内では従来の鋼製チェーンやロープの活用を中心にその検討が進められておりますが、欧州ではこれに変わる新たな合成繊維ケーブルの活用が進められています。

合成繊維は重量が軽く、錆びにくく鋼製に比べ耐用年数をはるかに長い特徴があることから、浮体式洋上風力発電の係留索やクレーンをはじめとした産業機械や建設用途での活用が期待されています。

このため当研究会では、浮体式洋上風力発電の係留索や産業機械、建設等の多様な分野における合成繊維ケーブルの活用促進に向け、使用者、製造者、施工者それぞれの視点での活用における課題及び解決策を協議し、その実用化に向けた研究を行うとともに、これを契機とした県内事業者・産業の育成を行います。

令和 8 年 3 月 1 0 日

合成繊維ケーブルの活用促進に向けた研究会

設立発起人	秋田県副知事	神部 秀行
同	秋田市長	沼谷 純
同	FibreMax B.V. Director Renewable Energy	Sander Van Helvoort
同	アイルエンジニアリング株式会社	代表取締役 玄馬 淳
同	マツモト網販株式会社	代表取締役 松本 健吾
同	株式会社ウエンティ・ジャパン	代表取締役社長 佐藤 裕之